

三河

自宅のよう 靴脱ぎ読書

教師ら図書室手作り

安城・今池小に おとぎの部屋



安城市立今池小学校(清水猛雄校長、全校児童458人)で、教師らが考案した手作り図書室「おとぎの部屋」(約50平方メートル)が完成した。通常の図書室隣の空き教室を利用し、靴を脱いでカーペットの上で座りながら本が読めるとあって、子どもたちに人気だ。

空き教室に完成

同校では、図書室の拡張に合わせて、「自宅にいるような子どもたちが靴を脱いで本を読める場所が欲しい」(清水校長)と、教師が基本的な考えや配置案を作り、同市の「魅力ある学校作り」事業に申請して認

▲「おとぎの部屋」で読書を楽しむ子どもたち(安城市立今池小学校で)―鈴木徹撮影

められた。費用は約250万円。

「おとぎの部屋」は今月10日にオープン。子どもたちに人気の図鑑や、戦前に安城高等女学校(現県立安城高校)の教員を務めた童話作家新美南吉(1913〜43)の絵本などの作品を集めた。靴箱は、地域の人々が作り、寄贈した。

同校では、児童の母親を中心に本の読み聞かせや図書室の整理運営にあたる図書ボランティアが活発に活動。現在は24人で、中心になって活動している丸玉明美さんは、「オープン当日に、子どもたちが『ワァーすごい』と喜んでいる姿を見てうれしかった」と話す。

清水校長は、「おとぎの部屋を子どもたちとボランティアの触れ合いの場としても活用し、豊かな人間関係を育てていきたい」と話している。